No.17

救急基金だより

みなさまの善意が「救急基金」を支えています

●救急基金の歩み
●寄付金募集事例紹介
　・高山市消防本部
　・石橋地区消防組合消防本部
●平成29年度救急基金会計の決算
●救急基金への寄付について

救急基金は、応急手当の普及など救急の振興のために活用されます。

一般財団法人　救急振興財団

救急基金の歩み

応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成３年５月に設立された救急振興財団は、設立当初より20,484名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上には救急救命士の現場到着前の市民による応急手当が重要であり、また、そのような応急手当の習得の要望も高まっています。

そこで、こうした課題に対処するために、救急振興財団では平成４年より、皆様から寄せられた寄付金を基金として積立て、その運用益を用いて応急手当講習会で使用する資器材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

事業の概要

＜平成５年度～平成８年度＞
応急手当指導員養成講習会の開催
＜平成９年度＞
ポスター及び救急基金箱の作製
＜平成10年度～平成30年度＞
消防機関が市民向けに行う応急手当講習会で使用する資器材の寄贈

寄付金募集事例紹介

高山市消防本部

高山市消防本部は、岐阜県飛騨地方に位置する高山市と大野郡白川村の１市１村を管轄しています。高山市は東西に約81キロメートル、南北に約55キロメートルあり、面積は2177.61平方キロメートルと日本一広い市です。

春と秋に開催される「高山祭り」は、2016年にユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、観光地として国際的にも有名で、2017年に高山市を訪れた外国人観光客は過去最高の462万人を記録しました。それに伴い、外国人救急搬送件数も増加の一途をたどっています。

また北に飛騨山脈（北アルプス）、南に白山連峰を擁しており、近年の登山ブームから多くの登山客が訪れる一方、山岳救急救助事案も増加しています。

このように広域で多くの観光客が訪れる管轄地域を抱える高山市消防本部では、多くの市民が救急救命講習を受講しやすいように様々な取り組みを行っています。

高山市の広報誌で募集する一般公募型救命講習は昨年度まで年３回開催していましたが、2018年度は10回に増やして実施し、３時間の普通救命講習が時間的に受講困難な場合は、入門コースや一般救急講習を勧めるなどより多くの市民が救命の知識に触れる機会が増えるように働きかけています。

また、小中学生を対象とした「ジュニア救命士講習会」の開催や小中学校の授業で応急手当講習を実施するなど、市内全ての小中学生が命の大切さや応急手当を身につけることができるように取り組んでいます。

「救急の日イベント」では、一般事業所と協賛して、事業所を訪れた市民に対して心肺蘇生法の体験や応急手当講習など普及啓発活動を行っております。

応急手当講習の受講者からは「日頃から救急の知識に触れることが、万一に遭遇したときに大事だと感じました。」、「胸骨圧迫の大切さを改めて認識できた。このような体験をすることで実際に起きた時に焦らず対応できる。」などの声が寄せられており、実際に60歳代男性が屋外作業中に心肺停止状態になった事例では、居合わせた４名が胸骨圧迫などを実施し、無事社会復帰をした事例もありました。

このように応急手当の普及に熱心に取り組まれている高山市消防本部の職員や市民の皆さまに心から感謝するとともに、今後の益々のご発展をお祈りいたします。

寄付金募集事例紹介

石橋地区消防組合消防本部

石橋地区消防組合消防本部は、下野市、壬生町、上三川町で構成され、関東平野の北部、栃木県の南東部に位置する平坦地にあります。JR宇都宮線、東武鉄道及び東北新幹線が走り、主要道路では国道４号と国道４号バイパスが管内中央部及び東部を並走して南北に延び、北関東自動車道が東西を結んでいます。これらの交通網の発達により、従来の農村集落から脱皮し飛躍的な発展をしつつあります。

救急活動の普及啓発として応急手当講習会を以前は３か月に１回行っていましたが、現在は、石橋署、壬生署、上三川署で順番に毎月実施しており、受講者数は以前と比較すると約100人増加しました。受講の動機をある女性に伺ったところ、同居中の母が目の前で亡くなり何もできなかったことが悔やまれて受講したとのことでした。以前まではパワーポイントを使った講習が主でしたが、現在は講師となる救命士が各自で、話し方を考えて話題の材料を集めるなど工夫をこらして実施しています。また、受講者にCPRを迷いなく実施してもらうため、民法の緊急事務管理などを丁寧に説明して「一歩前に出て」をスローガンに行っています。受講者からは、分かりやすく飽きずに受講できて楽しかったと好評を得ています。

バイスタンダーによるCPRを実施したケースとしては、ジムで運動中の高齢者が倒れ、偶然居合わせた消防団員がAEDを使用して電気ショックを行い、その後、救急隊に病院に運ばれ救命されました。また、銀行で記帳時に男性が突然倒れ、看護師と行員がバイスタンダーとなりAEDにて電気ショックを１回実施し、救急隊が引き継ぎ、さらに１回電気ショックを実施したところ、呼吸、脈拍も戻り、後に病院で意識を取り戻しました。

救急活動の普及啓発に役立てていただくため、AEDトレーナー、心肺蘇生訓練用人形などを寄贈させていただきましたが、資器材が増えたことで同日、同時間帯に３講習（30名程度）行えるようになったとのお話を今回、伺いました。市民による救急活動を支えるため精力的に取組まれている消防本部の皆様に心より感謝するとともに、今後の益々のご発展をお祈りいたします。

みなさまのご寄付で購入しているもの

皆様から寄せられた寄付金を積み立てた救急基金の運用益で、

- 心肺蘇生訓練用シミュレーター
- 応急手当講習用ＤＶＤ
- 応急手当講習テキスト
- ＡＥＤトレーナー

を購入しております。

これらは、全国の消防本部に寄贈され、応急手当の講習会等で活用されています。

＊過去の救急基金だより（ＮＯ．１～ＮＯ．１６）につきましては、救急振興財団のホームページ（ http://www.fasd.jp ）の 救急基金 の項目の中に掲載しています。

■平成29年度救急基金会計の決算（単位：千円）

科　　目	予　算　額	決　算　額	差　　異
Ⅰ 事業活動収支の部			
1　事業活動収入			
① 特定資産運用収入	2,080	2,080	0
② 寄附金収入	1,000	979	21
事業活動収入計	3,080	3,059	21
2　事業活動支出			
事業費支出			
救急基金助成事業費支出	2,170	1,994	176
事業活動支出計	2,170	1,994	176
事業活動収支差額	910	1,065	△ 155
Ⅱ 投資活動収支の部			
1　投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2　投資活動支出			
特定資産取得支出	1,000	979	21
投資活動支出計	1,000	979	21
投資活動収支差額	△ 1,000	△ 979	△ 21
当期収支差額	△ 90	86	△ 176
前期繰越収支差額	0	105	△ 105
次期繰越収支差額	△ 90	191	△ 281
※平成29年度末救急基金残高		182,159千円	

救急基金へのご協力ありがとうございました

平成29年度は病院、消防本部、個人の方から40件979千円のご寄付をいただきました。

また、救急基金にご協力いただいた次の７消防本部へ応急手当訓練用人形、テキスト等を寄贈いたしました。

・石橋地区消防組合消防本部
・砺波地域消防組合消防本部
・揖斐郡消防組合消防本部
・高山市消防本部
・中濃消防組合消防本部
・不破消防組合消防本部
・宇和島地区広域事務組合消防本部

救急基金への寄付について

救急基金は「救急基金箱」への募金や「郵便振替用紙」によりお申し込み頂けますので、皆様のご協力をお願いいたします。

お問い合わせ　一般財団法人救急振興財団
救急基金担当　TEL　042-675-9931

救急基金箱が破損等により使用できない場合などのお問い合わせは下記にお願いいたします。

救急基金だよりNo.17［編集・発行］一般財団法人救急振興財団事務局総務課
〒192-0364　東京都八王子市南大沢4-6　☎ 042-675-9931
FAX 042-675-9050